

第12号様式（第6条関係）

平成 31 年 4 月 30 日

那覇市議会議長

翁長 俊英 様

議員名 前泊 美紀



平成 30 年度政務活動費収支報告について

那覇市議会政務活動費の交付に関する条例第8条第1項の規定に基づき、別紙のとおり平成 30 年度政務活動費収支報告書を提出します。

記

平成 30 年 4 月分 ～ 平成 31 年 3 月分

平成 30 年度政務活動費収支報告書

議員名 前泊 美紀

1 収 入

政務活動費 1,080,000

2 支 出

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費		
研 修 費	48,400	
広 報 費	15,000	
広 聴 費	193,600	
要請・陳情活動費		
会 議 費		
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費	190,984	
人 件 費		
事 務 所 費		
合 計	447,984	

3 残 額 632,016 円

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

平成30年 会 計 帳 簿

議員名 前泊 美紀

区 分	年月日	項 目	領収書 No	金額(円)	事 項	充当額	ページ	ページ計	項目累計	区分累計
2	5/30	TRC自治体政策研究会 東京	1	33,400		33,400	1	48,400	48,400	48,400
2		(5/22~5/23) 1泊2日	2	10,000		10,000				
2			3	5,000		5,000				
3	4/27	広報紙制作費	1	20,000	3/4按分	15,000	1	15,000	15,000	15,000
4	3/29	円卓会議 開催費用	1	324,000	2人で按分	162,000	1	193,600	193,600	193,600
4		"	2	63,200	2人で按分	31,600				
8	5/24	新日本法規書追録	1	2,975		2,975	1	2,975	39,034	
8	7/19	"	2	3,549		3,549	2	3,549		
8	9/5	"	3	5,826		5,826	3	5,826		
8	9/9	"	4	3,648		3,648	4	3,648		
8	10/22	"	5	4,492		4,492	5	4,492		
8	10/22	"	6	3,919		3,919	6	3,919		
8	1/7	"	7	3,611		3,611	7	3,611		
8	2/18	"	8	5,273		5,273	8	5,273		
8	3/6	"	9	5,741		5,741	9	5,741		
8	3/20	沖縄建設新聞代	1	32,400		32,400	1	32,400		
8		日経グローバル	1	52,920		52,920	1	90,720	90,720	
8			2	37,800		37,800				
8		本 2冊	1	7,236		7,236	1	17,474	28,830	190,984
8		1冊	2	2,500		2,500				
8		1冊	3	5,000		5,000				
8		5冊	4	12,474		12,474				
8		1冊	5	1,620		1,620				
合 計						447,984		447,984	447,984	447,984
									1,080,000	632,016

調査研究費	
研修費	48,400
広報費	15,000
広聴費	193,600
資料購入費	190,984
人件費	
事務所費	
合計	447,984
1,080,000	632,016

差額

平成30年度 会計明細

議員名 前泊 美紀

区 分	種 別	集 計 (円)
①調査研究費	調査研究 ガソリン代	
	調査研究 駐車料金代	
	調査研究 高速料金代	
	調査研究 タクシー代	
	調査研究 モノレール代	
	調査委託費	
	調査研究 通信費 携帯電話代	
	調査研究 通信費 タブレット端末代	
	視察旅費 / ~ / 出張分	
	視察旅費 / ~ / 出張分	
	視察旅費 / ~ / 出張分	
	視察旅費 / ~ / 出張分	
	視察旅費 / ~ / 出張分	
調査研究費 集計		
②研修費	研修旅費 5/22 ~ 5/23 出張分	48,400
	研修旅費 / ~ / 出張分	
	研修旅費 / ~ / 出張分	
	研修参加費・会費	
	研修開催費・講師謝礼	
研修費 集計		48,400
③広報費	広報紙 印刷代	15,000
	広報	
	広報用消耗品費	
	広報用会場費	
広報費 集計		15,000
④広聴費	広聴会開催費用	162,000
	広聴会講師謝礼金	31,600
	広聴 タクシー料金	
	広聴 モノレール料金	
広聴費 集計		193,600
⑤要請・陳情活動費	資料印刷費	
要請・陳情活動費 集計		
⑥会議費	会議旅費 / ~ / 出張分	
会議費 集計		
⑦資料作成費	印刷製本代	
	事務用品等消耗品代	
資料作成費 集計		
⑧資料購入費	図書購入費	190,984
	新聞代	
資料購入費 集計		
⑨人件費	雇用経費	
人件費 集計		
⑩事務所代	事務所の賃借料	
	維持管理費(光熱費他)	
	備品購入費	
	事務所 通信費(固定電話代)	
	事務所 通信費インターネット利用料	
	テレビ視聴料金	
事務所費 集計		
総 計		447,984
¥108,000 差 額		632,016
		1,080,000

研 修 費

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号/ 1-3

【項目】 調査研究費 研修費 広報費 広聴費 要請・陳情活動費
 会議費 資料作成費 資料購入費 人件費 事務所費

研修費

5/22~5/23 1泊2日

東京 TRC自治体政策研究会 研修

別紙参照

充当額 48,400円

平成 30年 5月 30日

那覇市議会議長 様

会派名 無所属の会

議員名 前泊 美紀



出張報告書

政務活動費により視察、研修、要請・陳情活動、会議のため出張いたしましたので、下記のとおり報告します。

期 間	平成 30年 5月 22日 ~ 平成 30年 5月 23日 1泊2日	
月 日	日 程	内 容
5・22	TRC 自治体政策研究会	自治体経営と内部統制 ②合意形成と実地体制
5・23	TRC セミナー	待ったなし!公共施設マネジメント 計画実施の歯車をこうして動かせ
.		
.		

市内を含む旅費明細

航空賃(ホテルパック利用)	交通費	参加費	その他	合 計
33,400 円	円	15,000 円	円	48,400 円

①

② ③

[所 見]

別紙添付

①

領 収 書

発行: No.AJP0000489735
表示日: 2018年05月24日

下記、正に領収いたしました。

宛名 前泊美紀 様

金額 ¥33,400-
※但し、航空券代・宿泊代等として(クレジットカード決済)

予約番号 AJP1AARUQ1

旅行期間 2018年05月22日 ~ 2018年05月23日

決済日 2018年05月05日

※本紙は電子的に保持している領収データを画面表示したものです。



株式会社
リクルート

株式会社 リクルート
〒100-6640
東京都千代田区丸の内1-9-2グラントウキョウサウスタワー

②

No.1805-207

領収書

那覇市議会議員
前泊 美紀 様

金 10,000 円 (消費税込み)

但し、セミナー参加費として
(自治体政策研究会 第2回「自治体経営と内部統制-②合意形成と実施体制」
平成 30 年 5 月 22 日開催)

平成 30 年 5 月 22 日

株式会社図書館総合研究所
東京都文京区大塚三丁目 1 番 1 号
代表取締役社長 小澤 嘉謹

③

No.1805-313

領収書

那覇市議会議員
前泊 美紀 様

金 5,000 円 (消費税込み)

但し、セミナー参加費として
(待ったなし！公共施設マネジメント計画実行の歯車をこうして動かせ
平成 30 年 5 月 23 日開催)

平成 30 年 5 月 23 日

株式会社図書館総合研究所
東京都文京区大塚三丁目 1 番 1 号
代表取締役社長 小澤 嘉謹

自治体政策研究会

自治体経営と内部統制(全3回)

開催のご案内

図書館づくりとまちづくりに貢献する図書館総合研究所では、①講師による講義と②参加者の政策課題を題材とした事例研究等を通して政策思考実戦力の向上を図る継続・定例型の研修会「自治体政策研究会」を開催致します。政策力の向上、また政策の難形づくりの機会等としてご参加たまわれれば幸甚に存じます。

講義テーマ：自治体経営と内部統制(全3回)

内部統制の制度化と監査機能の強化に向けた地方自治法の改正、統一的基準による発生主義・複式簿記と固定資産台帳の整備を前提とする地方公会計制度の導入など自治体経営が新たな局面を迎えています。そこで、自治体経営と内部統制の問題について、①内部統制の基本、②合意形成と実施統制、③管理会計と意思決定の3回に分けて整理します。

構成：①講師による講義と質疑、②参加者の政策課題を題材とした事例研究、等で構成します。

講師：宮脇 淳 北海道大学大学院法学研究科・公共政策大学院教授

参議院事務局、経済企画庁、㈱日本総合研究所主席研究員等を経て現職。北海道大学公共政策大学院では初代を含め2度院長を務める。内閣府地方分権改革推進委員会事務局長、総務省第3セクターの等の方研究会座長、下水道財政のあり方研究会座長をはじめ、国・自治体の各種委員等を数多く歴任。著書に『自治体経営リスクと政策再生』『政策思考力』基礎講座』『地域を創る「政策思考力」入門編』等。

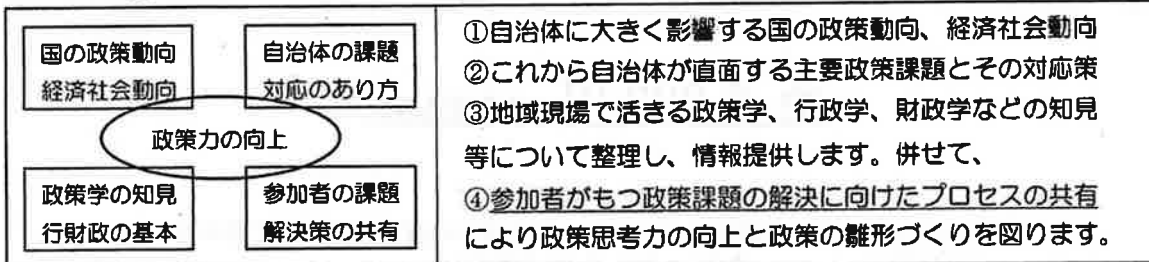
日時：第1回 4月24日(火) 第2回 5月22日(火) 第3回 7月17日(火) 各日 13:30-16:30
*以後、8月、10月、11月、来年1月、2月に開催する予定です。

会場：図書館流通センター 本社（東京都文京区大塚 3-1-1）
*JR 東京駅より東京外口丸の内線で約10分、「茗荷谷」駅下車、徒歩1分

参加費：お一人様・1回につき10,000円(税込) 当日、会場受付にて頂戴致します。

お申込：別紙「参加申込書」に必要事項をご記入の上、Faxにてお申込ください。
*継続性のある内容につき、基本的に毎回ご参加いただけることを前提にお申込下さい。
*定員25名。継続参加の方を優先させていただきます。定員に達し次第、締め切ります。

【自治体政策研究会について】



- 研究会は年間7~8回開催する予定です。開催の一ヶ月程度前を目処にご案内します。
- 1回3時間程度、講師によるレクチャーと参加者との質疑・議論等で構成します。
- 継続的なご出席、課題・情報の提供や議論等へのご協力、を基本にご参加ください。

【お問合せ】 TRC セミナー「まちの課題を解決する図書館」（担当：島 泰幸）
〒112-8632 東京都文京区大塚 3-1-1 株式会社図書館総合研究所
E-mail: shima.yasuyuki@mxh.trc.co.jp
Tel: 03-3943-2221 Fax: 03-3943-7058 URL: <https://www.trc.co.jp/soken/>

TRC 自治体政策研究会 <第Ⅲ期・第2回>

自治体経営と内部統制

—②合意形成と実施体制—

図書館総合研究所

【講師】 宮 脇 淳 北海道大学 大学院法学研究科・公共政策大学院 教授

【進行】 13:30 開会
13:35-15:15 講義
15:15-15:30 休憩
15:30-16:30 質疑・意見交換
16:30 閉会

【日時】 2018年5月22日(火)13:30-16:30

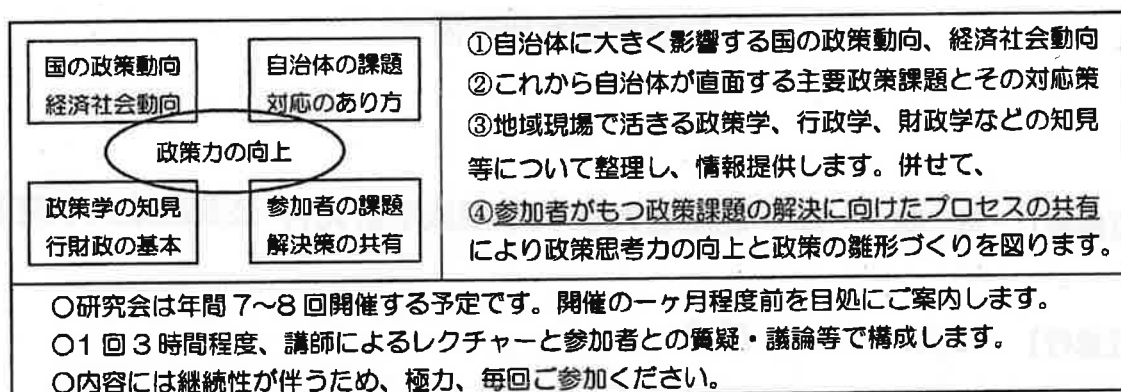
【会場】 図書館流通センター本社ホール（東京都文京区大塚 3-1-1）

【資料】 1. 自治体経営と内部統制—②合意形成と実施体制
2. 社会的合意形成について

TRC 自治体政策研究会

【開講趣旨】

地域社会が大きく変化する中で、自治体議員には、住民目線に立つ政治家として政策力を高め、住民、議会、行政とよい意味で緊張感をもって政策議論していくことが求められます。本研究会では、①国の政策動向と自治体の対応など政策情報、②地域現場で生きる政策学等の知見やツールなどについて情報提供するとともに、③参加者が抱える政策課題を題材とした事例研究を通して、政策を考え実現していく「政策思考力」の向上をめざします。



【第1弾講義テーマ】『自治体経営と内部統制』(全3回)

内部統制の制度化と監査機能の強化に向けた地方自治法の改正、統一的基準による発生主義・複式簿記と固定資産台帳の整備を前提とする地方公会計制度の導入など自治体経営が新たな局面を迎えています。そこで、自治体経営と内部統制の問題について、①内部統制の基本、②合意形成と実施統制、③管理会計と意思決定の3回に分けて整理します。

【開講予定】 (時間帯は 13:30～16:30、会場は TRC 本社ホールを予定)

第1回 4月24日(火)

第2回 5月22日(火)

第3回 7月17日(火)

【講師プロフィール】

宮脇 淳 (みやわき・あつし) 北海道大学大学院法学研究科・同 公共政策大学院教授
参議院事務局、経済企画庁、株式会社日本総合研究所主席研究員等を経て、北海道大学法学部・大学院法学研究科教授に。2005年、新設の北海道大学公共政策大学院で初代院長。07～09年、同大学院教授と兼務で内閣府参与及び地方分権改革推進委員会事務局局長を務める。10～13年、再び北海道大学公共政策大学院院長。
総務省第3セクター等のあり方研究会座長、下水道財政のあり方研究会座長、公営企業経営健全化研究会委員、国土交通省国土審議会委員、文部科学省中央教育審議会専門委員など、国および地方の各種委員等を数多く歴任。
著書に『自治体経営リスクと政策再生』(東洋経済新報社)、『地域を創る! 「政策思考力」入門編』(ぎょうせい)、『「政策思考力」基礎講座』(ぎょうせい)、『創造的政策としての地方分権』(岩波書店)、『図解 財政のしくみ』(東洋経済新報社)、『自治体戦略の思考と財政健全化』(ぎょうせい)、『第三セクターの経営改善と事業整理』(学陽書房)、『明日の地方創生を考える』(東洋経済新報社)、『財政投融资と行政改革』(PHP研究所)、『財政投融资の改革』(東洋経済新報社) 等。

TRC 自治体政策研究会

自治体経営と内部統制－②合意形成と実施体制－

【研究会チラシより抜粋】

「内部統制の制度化と監査機能の強化に向けた地方自治法の改正、統一的基準による発生主義・複式簿記と固定資産台帳の整備を前提とする地方公会計制度の導入など自治体経営が新たな局面を迎えている。自治体経営と内部統制の問題について、①内部統制の基本、②合意形成と実施統制、③管理会計と意思決定の3回に分けて整理する研究会」のうち、第2回を受講した。

【講師】 宮脇 淳 北海道大学大学院法学研究科・公共政策大学院教授

構成：①講師による講義と質疑、②参加者の政策課題を題材とした事例研究、等で構成

【日時】 2018年5月22日(水) 13:30-16:30

【会場】 図書流通センター本社 ホール(東京都文京区大塚3-1-1)

【内容と考察】

那覇市でも課題になっている内部統制。

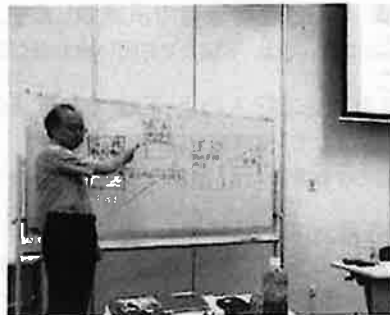
内部統制は、「リスク管理と情報共有」から。ステークホルダー(利害関係者)の幅広い把握が必要とのこと。そのつまびらかな把握が、重要だと実感した。

議会でも内部統制は必要という。議会の合意形成と住民の社会的合意形成は同じではない。合意形成の最適化と理想形は、議論を進めていく必要がある。

3時間の最後1時間は、各地から出席した10名ほどのメンバで、政策課題の意見交換をした。議会報告会を、声の大きい人々だけでなく幅広いステークホルダーから意見を聞く場とするにはどうしたらよいか、等々。

研究会は、同じテーマで各自治体の状況を知りディスカッションで深めることで、より有効に那覇市へ活用できる利点を感じた。

内部統制は大きな課題で、自治体規模や地域性もよると思われる。しかしながら、住民の福祉向上に効果的な行政運営に欠かせないことであるため、今後も調査・研究し、提案していきたい。



TRC セミナー「まちの課題を解決する図書館」

待ったなし！ 公共施設マネジメント 計画実行の歯車をこうして動かせ

（株）図書館総合研究所 & パブリックマネジメント（株）

拝啓 時下ますますご清祥の御事とお喜び申し上げます。

さて、図書館づくりと図書館を通したまちづくりに貢献する図書館流通センター（TRC）グループでは、地域政策をめぐる情報交流・共同研究の場としてセミナー「まちの課題を解決する図書館」を開催しております。

今回は、「公共施設等総合管理計画」策定後の実行段階における課題を整理し、次の一手を探ります。

つきましては、ご多用の折とは存じますが、是非ともご参加くださいますようお願い申し上げます。 敬具

【Talking Points】

地方自治体の公共施設マネジメントは、「公共施設等総合管理計画」の策定を経て実践段階に入っています。推進体制やノウハウ、庁内外での合意形成、個別施設計画との関係など課題も多く、統廃合・再編は思うように進んでいないのが実状です。この間、インフラでは全国で2,559の橋が財政難による改修遅れのため通行規制されていることも明らかになっています。公共施設を同様の事態に陥らせないためには何が必要でしょうか。今回は、「公共施設等総合管理計画」策定後における地方自治体の取り組み状況や課題を検証しながら、今後、公共施設マネジメントの歯車を動かし成果を得ていくための突破口と展開のあり方について考えます。

◎「実践」視点からの公共施設マネジメント～スピード感覚が生死を分ける（南 学）

◎計画と実践のリンク～包括施設管理業務委託という手段、まずは決め方を決めること（寺沢弘樹）

【講師】南 学（東洋大学客員教授）

横浜市役所で職員・参与など現場業務からトップマネジメントまでを経験。神田外語大学等の教授職を経て現職。行政刷新会議「事業仕分け」仕分け人、自治体の各種委員等を歴任。著書に『成功する公共施設マネジメント』、『自治体アウトソーシングの事業者評価』など。

寺沢弘樹（特定非営利活動法人日本 PFI・PPP 協会 業務部長）

流山市役所を経て現職。同市ではデザインビルド型小規模バルク ESCO、包括施設管理業務委託など各種ファシリティマネジメント施策を企画・実践。文科省学校施設の長寿命化計画策定に係る手引作成検討会委員等を歴任。共著に『成功する公共施設マネジメント』など。

【日 時】 2018年5月23日（水）13:00-16:30

【会 場】 図書館流通センター本社 ホール（東京都文京区大塚 3-1-1）

*JR 東京駅より東京メトロ丸の内線で約 10 分、「茗荷谷」駅下車、徒歩 1 分
<https://www.trc.co.jp/company/location.html>

【参加費】 お一人様 5,000 円（税込）当日、会場受付で頂戴致します。

*ご請求書の発行等については、下記までお問い合わせください。

【お申込】 別紙「参加申込書」に必要事項をご記入の上、Fax でお申込ください。

*お申込受付後、メールにて「出席票」をお届け致します。

*お申込後、ご欠席となる場合には、事前に、下記まで、必ずご連絡ください。

【お問合せ】 TRC セミナー「まちの課題を解決する図書館」（担当：島）

〒112-8632 東京都文京区大塚 3-1-1 株式会社図書館総合研究所

Tel: 03-3943-2221 Fax: 03-3943-7058 E-mail: shima.yasuyuki@mxh.trc.co.jp

URL: <https://www.trc.co.jp/soken/>

送信先: Fax. 03-3943-7058
図書館総合研究所 島 宛

TRC セミナー「まちの課題を解決する図書館」

待ったなし！公共施設マネジメント(5月23日開催)
受講申込書

【お申込者】 下欄にご記入ください。

お名前	フリガナ
ご所属	
お役職	
ご住所	〒
Tel / Fax	Tel: Fax:
E-mail	@

*ご記入の連絡先等は、図書館流通センターグループからの政策情報や催し物のお知らせ等に限って使用させていただきます。

【領収書】 お宛名=□□市議会議員○○○○様、□□市○○○○課様など、発行日付=開催日、
発行者=株式会社図書館総合研究所(代表者肩書・氏名・印、社印)、但し書=セミナー参加費、
にてご用意致します。記載事項にご指定がある場合には、下欄に内容をお知らせ下さい。

<input type="checkbox"/> 日付	
<input type="checkbox"/> 宛名	
<input type="checkbox"/> 但書	
<input type="checkbox"/> その他	

【通信欄】 テーマ関連のご関心事項、講師へのご質問等があれば、下欄にご記入下さい。

送信先 : Fax. 03-3943-7058
 図書館総合研究所 島 宛

TRC セミナー「まちの課題を解決する図書館」
 待ったなし! 公共施設マネジメント(6月23日開催)
 受講申込書

お申込者】 下欄にご記入ください。

お名前	フリガナ マエトモリ ミキ 前 泊 美 紀
ご所属	那覇市議会 (沖縄県)
お役職	議員
ご住所	〒 [Redacted]
Tel / Fax	Tel: [Redacted] Fax: [Redacted]
E-mail	[Redacted]

*ご記入の連絡先等は、図書館流通センターグループからの政策情報や催し物のお知らせ等に限って使用させていただきます。

領 収 書】 お宛名=□□市議会議員○○○○様、□□市○○○○課様など、発行日付=開催日、
 発行者=株式会社図書館総合研究所(代表者肩書・氏名・印、社印)、但し書=セミナー参加費、
 にてご用意致します。記載事項にご指定がある場合には、下欄に内容をお知らせ下さい。

<input checked="" type="checkbox"/> 日付 <input checked="" type="checkbox"/> 宛名 <input checked="" type="checkbox"/> 但書 <input checked="" type="checkbox"/> その他	上記記載例のとおり、お振り込み致します。
---	----------------------

通 信 欄】 テーマ関連のご関心事項、講師へのご質問等があれば、下欄にご記入下さい。

行財政改革, (指定管理者制度, ファシリティマネジメントなど) その他, 議会改革, 図書館行政 TPO
那覇市では, ファシリティマネジメント行動計画を策定後 次の一歩が踏み出せる 12/13

TRC セミナー「まちの課題を解決する図書館」
待ったなし！公共施設マネジメント
計画実行の歯車をこうして動かせ

【Talking Point セミナー案内より抜粋】

地方自治体の公共施設マネジメントは、「公共施設等総合管理計画」の策定で実践段階に入ってきているが、推進体制やノウハウ、町内外での合意形成、個別施設計画との関係など課題も多く、統廃合・再編は思うように進んでいないのが現状である。本セミナーでは「公共施設等総合管理計画」策定後における地方自治体の取り組み状況や課題を検証しながら、今後、成果を得ていくための突破口と展開のあり方について考える。

【講師】南 学（東洋大学客員教授）

「成功する公共施設マネジメント」

寺沢弘樹（特定非営利活動法人日本 PFI・PPP 協会業務部長）

「実践・計画のリアル・リンク

～包括施設管理業務、自分ごととして考える、決め方を決める～」

【日時】2018年5月23日（水）13:00-16:30

【会場】図書流通センター本社 ホール（東京都文京区大塚3-1-1）

【内容と考察】

那覇市でも、公共施設等総合計画にあたるファシリティマネジメント推進方針と、それに基づく行動計画を策定しているが、その後の進捗が不透明である。これまでの同趣旨での研修等受講で「早めに全体像を市民に説明し、個別の案件に備えるべき」と、議会でも提言してきたが、より具体的な次の提案をしたいと思い、本セミナーを受講した。

公共施設マネジメントは、単なる床面積の削減ではなく、「縮充」かつ「運営から経営へ」の発想転換が必要とのこと。セミナーでは、大阪城天守閣の資産活用事例で、「指定管理料が実質マイナス」になる事例が紹介され、将来の指定管理制度のあり方を考える参考になった。また、公共施設マネジメントは財政の問題であり、バランスシートがどう動くかを見る必要があること、自治体によっては困難な状況はあるようだが、一部の本気の職員から事は動くと、マンパワーの重要性も説かれた。

また、公共施設マネジメントの「次の一歩」として、公共施設管理委託を効率化する「包括施設管理委託」が示され、ふんだんな事例も合わせ、理解しやすい講義だった。

那覇市に落とし込むには、内部統制とも深く関わってくる。多様で持続的な市民サービスには必須な課題と捉え、学びを活かし鋭意取り組んでいきたい。



廣告費

本報廣告部地址：東京市丸の内區千代田一丁目一丁目

（東京市丸の内區千代田一丁目一丁目）

（電話：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

（電報掛號：〇三三三）

Table header with columns: 姓名 (Name), 性别 (Gender), 年龄 (Age), 籍贯 (Origin), 职业 (Occupation), 学历 (Education), 备注 (Remarks)

代 刷 印

Table content, row 1: 姓名 (Name), 性别 (Gender), 年龄 (Age), 籍贯 (Origin), 职业 (Occupation), 学历 (Education), 备注 (Remarks)

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

【項目】

調査研究費

研修費

広報費

広聴費

要請・陳情活動費

会議費

資料作成費

資料購入費

人件費

事務所費

領 収 証

前泊美紀

様

No.

★ ¥ 70,000-

内 訳

現金

小切手 /

手形 /

消費税額等 (%)

コクヨ ウケ-88

但 議会活動経費印刷として

30年 12月 27日 上記正に領収いたしました

収入印紙

沖縄県那覇市泉崎2丁目23番18号

楚 辺 印

代表者 赤嶺 加代美

TEL (098)833-4477 FAX 833-3791

200 枚印刷分として

75% 按分

充当額 15,000 円

第5次那覇市総合計画がスタート

計画案は市議会が一部修正可決



【総合計画】

まちづくりの基本的な方向性を定めた長期計画(那覇市では10年間)で、自治体の最上位計画。

市が進める政策やその他の計画は、この総合計画を踏まえて作られる。

第5次総合計画の期間は、2018(平成30)年度から2027年度まで。中間の5年で、市民・議会参画で検証・見直し。

那覇市第5次総合計画が平成29年12月定例会に上程されました。

那覇市議会では、議会基本条例(第14条第1号)で総合計画の基本構想と基本計画を議決事件として加え、議会として同計画に責任を持って関わることを決めました。

議員全員による調査は、平成29年2月、公募による市民が約10か月かけて作成した第5次総合計画の市民提案についての、執行部からの説明に始まり、議会質問等で必要性が指摘されてきた第4次総合計画の検証、第5次総合計画の基本構想案、改選をはさみ、基本計画案へと進めてきました。

そして、12月定例会において、議案として市議会に提出された第5次総合計画案を審議し、いくつかの修正をした上で全会一致可決しました。修正した一つは、計画を実効性のあるものとするため、期間中間の5年で市民と議会の参画で検証し、必要があれば見直すことを明確に記したことで、これは議会報告会でも市民から意見として上がっていたものでした。私が提案したもう一つは、「平和事業の充実」についてです。期間中に戦後80年を迎える中で、しっかりと平和行政に取り組んでほしいことから、事業数の目標値を加える修正を議会で行いました。さらに、沖縄戦の経験をしっかりと受け継ぐことに合わせ、次世代が平和を国際社会に発信する未来志向の事業の展開と、那覇市の平和施策の柱となる事業の構築を、提言しています。

市民、行政、議会の、みんなで手掛けた第5次那覇市総合計画は、スタートを切りました。期間中に那覇市は市制施行100周年を迎えます。そこに描いた将来像に向け実効性のある「私たちの計画」とするためには、進捗管理が重要になります。市議会として市民とともにしっかりと取り組んでいけるよう、私も励んでまいります。

必要な支援が届く住宅政策を

那覇市営住宅の入居要件が、連帯保証人を2人要する等、県営住宅等の要件と比べ厳しく、申し込みをためらう市民がいるとのことから、必要とする市民に支援が届くよう改善を求めました。これは陳情が提出されており、建設常任委員会での審査後の全会一致採択を経て、議会意思として表明。これを受け、市は平成29年12月に条例を改正し、平成30年度から入居要件を緩和しました。同時に、平成28年2月定例会で取り上げたひとり親世帯の期限付き入居についても、実情に合わせた事実上の緩和をしています。

市営住宅のあり方については、市民生活に直結する施策ひとつでもあるので、市民の声を聞き、調査研究していきたいと思えます。



平成 28 年 6 月定例会

【代表質問】

- 1. 平成 26 年那覇市長選挙での城間市長公約の進捗と評価
- 2. 第 5 次那覇市総合計画基本構想

【一般質問】

- 1. 沖縄少年会館の理念継承の現状と「母の光」像等の活用
- 2. 事業所内保育、企業主導型保育事業など企業内保育の現状と課題
- 3. 里親制度への取り組みと LGBT カップルの里親認定について
- 4. 一括交付金の独自評価の必要性

【議案に対する質疑】

- 1. 外国人観光客誘客促進事業
- 2. 立地適正化計画策定事業

平成 29 年 7 月臨時会

【議案に対する質疑】

固定資産税過大徴収損害賠償訴訟の訴えの提起（控訴）

==== 改 選 ====

平成 29 年 9 月定例会

【一般質問】

- 1. 平成 29 年地方自治法一部改正
 - ①内部統制に関する方針の策定等につき財務に関する事務等の適正な管理及び執行を確保するための指針を定めること

②監査制度の充実強化につき議

- 選監査の位置付け等、その他
- 2. 市営住宅の入居要件の緩和
- 3. 電力自由化の現状と課題

【議案に対する質疑】

- 1. 久茂地牧志地区地区整備計画区域についての都市計画審議会での審議内容と答申
- 2. 一般会計補正予算（第 2 号）中

①旧那覇飛行場用地問題解決事：（仮称）大嶺コミュニティセンター建設経緯と財源

②小禄支所建設整備事業：

- ・地域住民との合意形成の経緯
- ・隣接する小禄宇栄原郵便局の小禄支所への設置の検討経緯と結果

平成 28 年 12 月定例会

【代表質問】

- 1. 第 5 次那覇市総合計画案
 - 2. パートナーシップ条例の制定
- 【一般質問】

- 1. 本市の公契約条例の考え方
- 2. 指定管理者制度の包括的かつ具体的な検証の必要性と今後の課題改善の取り組み
- 3. 本市の公立中学校制服価格の現状と対応

【議案に対する質疑】

第 5 次那覇市総合計画（基本構想及び基本計画）

平成 30 年 2 月定例会

【代表質問】

- 1. ①平成 30 年度一般会計予算（1,475 億 7 千百万円）と施政方針
- ②経済振興について（都市化がリードする経済発展論 / 事業承継問題）

2. 今後 10 年の「平和事業の充実」

【一般質問】

1. 行財政改革

- ①地方交付税算定でのトップランナー方式導入の影響と業務改革の課題

②本庁舎駐車場（行政財産）の貸付の経緯と課題

2. 犯罪被害者支援

①被害者の「居住の安定」支援の本市の現状と課題

②生活保護受給者の犯罪被害者等給付金および示談金の扱い

【議案に対する質疑】

那覇市職員の自己啓発等休業及び修学部分休業に関する条例制定について

賛成討論：固定資産税過大徴収損害賠償訴訟の訴えの提起（上告）

皆さまとともに実現したいこと～政策公約から

■所得向上・働く環境改善／県都としての自立型経済振興□

その一つに「社会課題である『子どもの貧困』問題を根本的に解決する自立型経済基盤の構築」を掲げました。これは沖縄県の長年の課題であり、すそ野が広く奥が深い問題です。

まずは課題を整理し、できることから。「行政が直接効果を出せる経済政策」として、一期目より「公契約条例の制定」を提言しています。公契約条例とは、自治体が民間企業や団体と事業委託などの公契約を締結する際に、賃金の最低基準額を保障するものです。沖縄県がこのほど制定し、那覇市でも制定の動きがありますが、実効性のあるものにしなければなりません。また、市が推進する指定管理者制度で、管理料が見合わず応募団体が無い等の課題が顕在化し、運用のあり方の検証と改善が必要になっています。

一つひとつ積み上げながら、生活者が実感できる自立型経済の確立を目指していきます。

■被害者に寄り添った市政を□

「犯罪被害者支援条例の制定」については一期目より掲げていますが、ご理解いただくのに苦慮しています。

「被害者支援は必要だけど、市が行う必要はないのでは」と思われているようです。安心安全な居住の確保など生活に直結する市だからなせる支援を、課題を合わせ一つずつ例示し、条例として保障されるよう、議員提案での制定も視野に、進めてまいります。

平成 29 年度視察報告・研修 各地の学びを市政へ活かす政務活動等調査

地方議会における政策サイクルと評価モデル 研究会・第二期

(公財)日本生産性本部が主催する研究会(顧問:北川正恭早稲田大学名誉教授、座長:江藤俊昭山梨学院大学教授)の第二期。

第一期での「議会からの政策サイクル」の展開に続き、今期は、議会評価の基準モデルの設定を目指し、議論を重ねました。

議会からの政策サイクルを機能させた地域経営で、住民福祉の向上につなげるための評価モデルはどうあるべきか。「誰がいつ何をどう評価するか」難しい課題だが、先進議会の具体例や議論を通して方向性が見えてきました。

また、多くの議会が抱えている「はじめの一步をどう踏み出すか」については、昨年のフォーラムで私がテーマとして提起しましたが、今期研究会で様々な意見が交わされ、例示されました。⇒成果報告等は4面に

実施期間:平成29年7月～平成30年3月

参加議会:会津若松市議会、飯田市議会、大津市議会、
可見市議会、陸前高田市議会、船橋市議会、
甲府市議会、那覇市議会



研究会の様子(東京・日本橋コレド:左は第1回、右は第6回)

建設常任委員会視察～公共交通をテーマに～



栃木県宇都宮市にて



高層複合施設岐阜シティタワー

期間:平成30年1月29日(月)～2月1日(木)

- ・愛知県における自動運転関連の施策
- ・岐阜駅周辺の市街地再開発事業(土地の高度利用)
- ・宇都宮市が目指す公共交通ネットワークについて(LRTの導入)
- ・柏市におけるオンデマンド交通の取り組み(予約型相乗りタクシー)

□それぞれ有意義でしたが、特に柏市の取り組みは、那覇市でもモノレールの恩恵を受けていない真和志地域で乗合タクシーを導入しているため、周知や利便性向上等の共通課題や改善の試み等、参考になりました。

那覇市では、市の将来都市像の実現に向けた基本目標である都市計画マスタープランを平成32年度スタートに向け全面改訂、居住・都市機能を誘導し「まちの目鼻立ち」をつくる立地適正化計画案を平成30年度中に、それを受けて地域公共交通網形成計画を平成32年度までにと、まちづくりの要となる計画が次々と策定される予定です。

住みよい那覇市のまちづくりのため、しっかりと務めてまいります。

マニフェスト・サミット2017「政策で勝負する議会へ～次世代の地域経営を考える～」(7/31・8/1)

□時代が目まぐるしく変化するなか、議会はどのように対応し次世代に備えるべきか——研修会では議会改革の最新動向を踏まえたうえで、「議員のなり手不足」「シティズンシップ」「公職選挙法改正(地方議会議員選挙におけるビラ解禁)」「東京都議会議員選挙結果と有権者意識」「AI(人工知能)・ロボティクス」などをキーワードに、新しい地域経営と議会のあり方を学びました。

議会が実質的に地域を変えることが求められる時代。根本的な政治の信頼回復に向けた「議会変革」が必要です。

公職選挙法改正で、都道府県・市の議会選挙でも法定ビラ配布が2019年から可能になります。これは、私達ローカル・マニフェスト推進地方議員連盟で全国キャンペーンを行い、那覇市議会でも意見書を提出し、実現したものです。

私達が目指す「政策本位の選挙」を実現できるのか。全国の仲間とともに、頑張ってまいります。



衆議院第一議員会館(東京都千代田区)にて

マエミキの1丁目1番地 議会改革を発信！ 市民とともに歩む議会へ

地方議員フォーラム 2017
議会改革の第二ステージ～議会評価を考える～

地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会の2年間の成果報告。⇒3面に関連

“以前は議員個人の動きだった議会改革が、議会が全体をマネジメントする流れに/時代が変わってきた体感を共有し、地方から日本を変えよう”——フォーラムでは、先進議会の発表の後、研究会メンバー等をパネリストに、「政策サイクルの展開と議会評価のはじめの一步」「先進議会のこれから」についてディスカッションしました。

私は、「はじめの一步」を踏み出した発展途上の那覇市議会として登壇し、那覇市議会のこれまでの取り組みと今後の課題について発言しました。

参集した約100名の熱気が、議会改革の輪を全国に押し広げることを期待しています。

※報告書「議会からの政策サイクルとその評価のガイドライン」(仮)は平成30年7月完成予定



4月21日全国町村会館(東京都千代田区)にて

International Visitor Leader Program

縁あって米国務省のリーダープログラム(IVLP)に参加しました。

ワシントン D.C.からサンフランシスコまでの6都市を3週間にわたり訪問し、女性の活躍等について意見を交わしました。メンバーは公務員、政党職員との4名。学ぶことの多い、充実した旅でした。

カリフォルニア州デービス市では、市議会場で意見を述べる機会を頂き、沖縄の現状を伝え、共に平和な未来を築こうと呼びかけました。

多様性と寛容の街、サンフランシスコの光と影は、那覇市の将来像の参考になりました。

上：米国連邦議会(ワシントンD.C.)にて
下：カリフォルニア州デービス市議会



大学や母校で“議会のお話し”



上：沖縄国際大学(10/12) 行政実務論 I
左上：仲井真中学校(11/17) 「ようこそ先輩」事業
左下：那覇高等学校(10/12) 城岳講座

沖縄国際大学では平成23年から、年に一度の外部講師として講義をさせて頂いています。

平成29年は母校の仲井真中学校、那覇高等学校で、後輩達とお話する機会を頂きました。

若い世代との交流は楽しみです。政治参加の大切さを語るのには難しい。わかりやすく、楽しく——私の今後の課題です。

近頃は、ありがたいことに、県外大学や様々な場面で、議会改革や政策について話すようご依頼を頂くことが増えています。

様々な世代、分野の方々と交流する機会から多くを学び、議員活動にいかしていきたいと思ひます。

■編集後記■

「三期目になると景色が変わるから」。一期目からお世話になり尊敬する他市議会の先輩議員が、議会改革で悩む私を励まし続ける中でかけて下さった一言です。

平成29年夏の改選で三期目に送り出して頂き、確かに「視界が変わった」と感じています。

総合計画を審議することで長期的な展望を、海を渡り方々に足を運ぶことで視野の広がりや、若干ながら得られた気がしています。

将来の市民にどのような那覇市を手渡したいか——これまでの経験をいかし、これまで以上に、市民の笑顔が増えた実感できる那覇市を目指し、励んでまいります。

皆様からの日頃のご指導、ご支援に感謝を込めて
那覇市議会議員 前泊美紀

費 聽 廣

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

【項目】	<input type="checkbox"/> 調査研究費	<input type="checkbox"/> 研修費	<input type="checkbox"/> 広報費	<input checked="" type="checkbox"/> 広聴費	<input type="checkbox"/> 要請・陳情活動費
	<input type="checkbox"/> 会議費	<input type="checkbox"/> 資料作成費	<input type="checkbox"/> 資料購入費	<input type="checkbox"/> 人件費	<input type="checkbox"/> 事務所費

本 部 費

2019年3月9日 開催

『公共交通を福祉とまちづくりの視点から考える地域円卓会議』

※領収書別紙添付

2 枚

充当額 193,600 円

平成 31 年 3 月 30 日

那覇市議会議長 様

議員名 前泊 美紀



広聴会等実施報告書

政務活動費により広聴会を実施しましたので、下記のとおり報告します。

日 時	平成 31 年 3 月 9 日 午 1 時～
場 所	沖縄県立図書館 3F
参加者	約 45 名
内 容	別添の報告書をご覧ください。
備 考	開催に伴う費用を主催者(無所属の会 2 名)で按分 【費用の内訳】 円卓開催費用 ￥162,000 講師等の謝礼金及び旅費交通費のうち(50%)負担分 ¥31,600 合計 ￥193,600

[所 見]

別添の報告書をご覧ください。

領収証

前泊 美紀 様

金額 162,000円

但、『2019/3/9開催「公共交通を福祉とまちづくりの視点から考える地域円卓会議」』開催費用のうち(50%)負担分として

2019年 3月29日 上記正に領収いたしました。

公益財団法人みらいファンド 沖縄
代表理事 小坂 寛
〒903-0824
沖縄県那覇市首里池端町34 2階
(電話) 098-884-1123

領収証

前泊 美紀 様

金額 31,600円

但、『2019/3/9開催「公共交通を福祉とまちづくりの視点から考える地域円卓会議」』講師等の謝礼金及び旅費交通費のうち(50%)負担分として

2019年 3月29日 上記正に領収いたしました。

公益財団法人みらいファンド 沖縄
代表理事 小坂 寛
〒903-0824
沖縄県那覇市首里池端町34 2階
(電話) 098-884-1123

平成31年3月14日

御 請 求 書

中村 圭介 様
前泊 美紀 様

公益財団法人
みらいファンド 沖縄
代表理事 小阪 亘
沖縄県那覇市首里池端町34
Tel/Fax : 098-884-1123

下記のとおり御請求申し上げます

件 名 「公共交通を福祉とまちづくりの視点から考える地域円卓会議」諸経費

御請求金額		387,200 円 (税込)
科 目	金 額	内 容
1 地域円卓会議開催費	324,000	企画、運営、報告書作成 (税込)
2 講師等の謝礼金および旅費交通費	61,406	谷田貝 哲氏 謝礼金 ¥20,000、旅費交通費 ¥41,406
	1,200	前城 充氏 交通費 ¥1,200
	594	謝礼金・旅費交通費等の振込に係る振込手数料
合 計	387,200	

●お振込先
琉球銀行
公益財団法人みらいファンド沖縄

※お振込される場合の手数料は、お客様負担となります。



テーマ

那覇市と周辺地域の住民誰もが自由に
移動できるまちづくりと公共交通を考える円卓会議

入場無料
どなたでも
参加できます

論点提供者 中村 圭介 氏 (那覇市議会 議員)

「地域円卓会議」は、地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ(課題)を共有し、アイデアとネットワークを持ち寄る対話の場です。企業・行政・地域・学識・メディア等、多様な見地を有するメンバーが一同に会し、提示された課題の解決をめざして議論します。今回の円卓会議は、個別の移動手段の整備や運営会社の経営の課題ではなく、誰もが自由に移動できるための公共交通の役割を再定義するために必要な議論が何かを参加者で確認します。

2019年 3月9日(土) 13:00-15:40 (受付開始: 12:30~)

会場

沖縄県立図書館 3F ホール
那覇市泉崎1丁目20番1号(カフーナ旭橋A街区内)

対象

どなたでも参加できます。

参加申込方法

参加希望の方は、NPO 法人まちなか研究所わくわくまで、お名前・ご所属、ご連絡先(メールアドレス)を添えて、メール・FAXでお申し込みください。

e-mail: office@machiwaku.com TEL&FAX: 098-861-1469

- 主催 那覇市議会 無所属の会
- 協力 公益財団法人みらいファンド沖縄 NPO 法人まちなか研究所わくわく

公共交通を福祉とまちづくりの視点から考える地域円卓会議のご案内

今回の円卓会議は、個別の移動手段の整備や運営会社の経営の課題ではなく、誰もが自由に移動できるための公共交通の役割を再定義するために必要な議論が何かを参加者で確認します。

円卓会議とは 「地域円卓会議」は、地域社会において多様な主体が連携することをめざし、テーマ（課題）を共有し、アイデアとネットワークを持ち寄り対話の場です。企業・行政・地域・学識・メディア等、多様な見地を有するメンバーが一同に会し、提示された課題の解決をめざして議論します。

テーマ

那覇市と周辺地域の住民誰もが自由に移動できるまちづくりと公共交通を考える円卓会議

<論点提供者> 中村 圭介 氏 (那覇市議会 議員)

住民にとって移動は権利である。この「おでかけをする権利」を保証するためには、現状の路線バスの利便性向上や利用啓発の議論だけでなく、まちづくりや社会福祉の視点から公共交通のあるべき姿を見定める必要があります。今回の円卓会議は、個別の移動手段の整備や運営会社の経営の課題ではなく、誰もが自由に移動できるための公共交通の役割を再定義するために必要な議論が何かを参加者で確認します。

■タイムテーブル (予定)

- 13:00 オープニング ~あいさつ~
- 13:05 地域円卓会議について
- 13:10 【論点提供】那覇市と周辺地域の住民誰もが自由に移動できるまちづくりと公共交通を考える円卓会議
- 13:25 セッションI (兼出席者紹介)
- 14:40 サブセッション (会場全体で意見交換) 兼 休憩
- 15:10 セッションII
- まとめ
- 15:40 円卓会議 終了予定

■着席者

- ・中村 圭介 氏 (那覇市議会 議員)
- ・ずけらん しん 氏 (公共交通を利用する市民)
- ・前城 充 氏 (南風原町役場 こども課 課長)
- ・石垣 綾音 氏 (株式会社国建 まちづくり計画部)
- ・谷田貝 哲 氏 (バスマップ沖縄 主宰)
- ・一柳 亮太 氏 (会社員・元那覇市民)
- ・高崎 園子 氏 (沖縄タイムス 社会部 記者)

司会進行: 平良斗星 氏 (公益財団法人みらいファンド沖縄副理事長)
記録者: 室伏長子 氏 (コトバグラフィッカー)

- 開催日時 2019年3月9日 (土) 13:00-15:40 (受付開始: 12:30~)
- 会場 沖縄県立図書館 3F ホール (那覇市泉崎1丁目20番1号 (カフーナ旭橋A街区内))
- 対象 どなたでも参加できます。
- 参加費 無料 ●定員 80名

参加申込方法

参加費は無料です。どなたでも、この円卓会議を会場でお聞きいただくことができます。ご希望の方は、お名前・ご所属、ご連絡先 (メールアドレス) を添えて、メール・FAX でお申し込みください。

e-mail : office@machiwaku.com

FAX : 098-861-1469

- 主催 那覇市議会 無所属の会
- 協力 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

参加申込書

所属 _____

役職 _____

ご氏名 _____

連絡先 _____

※ファックスでお申し込みの方はこちらの面をお送りください。

公共交通を福祉とまちづくりの視点から考える 地域円卓会議

2019.02.27

開催日時

13:00-15:40

開催場所

沖縄県立図書館 3F ホール

■テーマ

那覇市と周辺地域の住民誰もが自由に移動できるまちづくりと公共交通を考える円卓会議

■論点提供者

・中村 圭介 氏(那覇市議会 議員)

住民にとって移動は権利である。この「おでかけをする権利」を保証するためには、現状の路線バスの利便性向上や利用啓発の議論だけでなく、まちづくりや社会福祉の視点から公共交通のあるべき姿を見定める必要があります。今回の円卓会議は、個別の移動手段の整備や運営会社の経営の課題ではなく、誰もが自由に移動できるための公共交通の役割を再定義するために必要な議論が何かを参加者で確認します。

■着席者

- ・中村 圭介 氏(那覇市議会 議員)
- ・ずけらん しん 氏(公共交通を利用する市民)
- ・前城 充 氏(南部広域市町村事務組合)
- ・石垣 綾音 氏(株式会社国建)
- ・小宮 啓明 氏(沖縄エアポートシャトル有限責任事業組合)
- ・谷田貝 哲 氏(バスマップ沖縄)
- ・高崎 園子 氏(沖縄タイムス 社会部)

司会進行:平良 斗星(公益財団法人みらいファンド沖縄 副理事長)

記録者:室伏長子 氏(コトバグラフィッカー)

■主催 那覇市議会 無所属の会

■協力 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

■参加の申込み方法

参加費は無料です。どなたでも、この円卓会議を会場でお聞きいただくことができます。

ご希望の方は、NPO 法人まちなか研究所わくわくまで、お名前・ご所属、ご連絡先(メールアドレス)を添えて、以下のメールアドレスにお申し込みください。

e-mail: office@machiwaku.com



公共交通を福祉とまちづくりの視点から考える 地域円卓会議

那覇市と周辺地域の住民誰もが自由に
移動できるまちづくりと公共交通を考える円卓会議

実施報告書

日 時： 2019年3月9日(土) 13:00-15:40
場 所： 沖縄県立図書館 3F ホール（那覇市泉崎1丁目20番1号カーナ旭橋A街区内）
主 催： 那覇市議会 無所属の会
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】公共交通を福祉とまちづくりの視点から考える地域円卓会議



- 日 時：2019年3月9日(土) 13:00-15:40
- 場 所：沖縄県立図書館 3F ホール
- 着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 来場者数：45名（行政、企業、NPO・市民団体等）

- 主 催：那覇市議会 無所属の会
- 協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく
- お問合せ：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供 中村 圭介 氏（那覇市議会 議員）

那覇市と周辺地域の住民誰もが自由に 移動できるまちづくりと公共交通を考える円卓会議

「住民にとって移動は権利である。」この「おでかけをする権利」を保証するためには、現状の路線バスの利便性向上や利用啓発の議論だけでなく、まちづくりや社会福祉の視点から公共交通のあるべき姿を見定める必要があります。今回の円卓会議は、個別の移動手段の整備や運営会社の経営の課題ではなく、誰もが自由に移動するための公共交通の役割を再定義するために必要な議論が何かを参加者で確認します。

センターメンバー



中村 圭介
那覇市議会
議員



一柳 亮太
会社員
元那覇市民



ずけらん しん
公共交通を
利用する市民



谷田貝 哲
バスマップ沖縄
主宰



前城 充
南風原町役場
こども課 課長



石垣 綾音
株式会社国建
まちづくり
計画部



高崎 園子
沖縄タイムス
社会部 記者

▶ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

の提供

- 沖縄のバス会社の良さは、バス会社が異なっても同じバス停に停まることや、バスの系統番号が整理されていることなど、バス会社間の連携がとれている。しかし、バスターミナルに来て、各社の窓口はあるが、総合案内所のような所がない
- 旧市街地にある古くからの公民館に行くバスは本数が減少してきており、新しい公民館はバス停から徒歩 20～30 分かかるなど、なぜ公共施設に行くのに、公共交通を使ってこんなに不便なのかと思う
- バスの問題点として、同じ名前のバス停が 6 か所ある所や、バス停に「どこ周り」が記載されておらず、分からない所がある
- 「バスマップの入手をきっかけに、普段車で行くところにバスで行ってみた」という方にアンケートを行った結果、案外便利との回答が 61%であった。バスを使用すると意外と不便ではない。分かりやすく情報を伝えれば良いと思う
- 沖縄のバス利用者は、ここ 10 年程度は減っていない
- 全国と比較すると、沖縄県民一人あたりのバス利用回数は、およそ 25 位～30 位ぐらいであり、沖縄よりバスを使用していない都道府県はある
- 沖縄のバス料金は、全国的に見て、けして高い金額ではない。沖縄では電車などが無く、全てをバスが担っているので、割高感を感じる
- 1 つの調査によると、同じようなデザインの道でも、1 日あたり 2 千台の車が通る道では、平均で 1 人あたり 3 人の友達、6.3 人の知り合いがいるが、一日 1 万 6 千台の車が通る道では、平均 0.9 人の友達、3.1 人の知り合いにまで減少する、という調査が出ている。幸せな都市を作るには、皆が移動できる自由が無いと、人の繋がりとか利便性等が生まれないと、という話がされている
- マイカーのコストを調べると年間 41 万円、月にすると 3 万 4 千円。沖縄では手取り収入が十数万という家庭も多いため、出費の割合は高い
- 路面電車のコストは、1 km 当たり地下鉄の 10 分の 1
- 沖縄は戦前に県営鉄道があり、1941 年のピーク時で、沖縄県の人口が 95 万人程度の時に、年間 300 万人以上の乗客がいた。県営鉄道は、ほとんど運賃で運営されていたので、観光キャンペーンを行い、乗客を増やしていた
- 那覇市では、自転車を乗せられるバスの導入を検討中
- 研究で分かっているのが、公共交通が無くなった時に対応する必要がある費用負担に比べれば、公共交通を維持する方が安くなる
- 自家用車が少ない時代、沖縄でもバス会社は稼ぐための手段であり、運賃の安売り競争が行われていた
- 沖縄には、生活保護を受けられる経済状況だが、子どもの送迎や仕事で車を使用するため、生活保護を受けられない方が沢山いる

の提供

- モノレールが作られたり、街の姿が変わっても、交通の問題だけが置き去りにになっていないか
- 車は本当に便利なのか。バスを使用したときの利便性が伝わっていないと思う
- 公共交通は各市町村をまたがっているが、決定権が市町村で線が引かれている。その為、各市町村職員に、公共交通は沖縄県が行うものという意識がある
- 都市計画とは、福祉と教育が土台にあり、その中で、まちづくりがあり、住まいや公共交通があるなど、全部を含めて都市計画である
- 今、世界中の都市計画で自転車道路の無い、あるいは、自転車を活用しない都市計画はまず無いと思う
- 移動困難者の方など、全ての人がアクティブに行動できるまちを作ることが、社会の幸せを作ると確信を持っている
- 沖縄県は観光立県として、公共交通の情報をどう発信していくのか、もっと深めて考える必要があると思う
- 公共交通は標準装備である。沖縄振興計画 3 年の間にどう公共交通の面を組み込めるか

の提供

- 交通の問題は色々見えるが、誰がどう動けば解決に向かうかが見えてこない。見落としている視点があるのではないか
- 沖縄では公共交通をどのような方が利用し、どのように利用されるのかを明確にしていく事で、持続的に利用される沖縄型の交通機関になると思う

- まちづくりの中に公共交通を位置づける時、乗り物だけの話ではなく、地域全体が循環していく全体的な結びつきを考え、総合的に俯瞰して考える必要がある
- 沖縄は南北に長く、西と東海岸の間に山があること、地理的条件や、米軍基地を結ぶようにバス路線が作られていること、基地を迂回してバス路線を作っているなどの成り立ちを考慮して、バスについて考える必要がある。また、それをバス会社だけで考えても難しいため、一緒に考えていく必要がある
- 公共交通と自転車の関係をもっと研究して環境を整えれば、多くの方が自転車に乗れると思う。自転車の方が早く、快適であるという状態をどう社会が作るか
- バスには不便な所もあると思うが、何と比較して不便なのか。車も渋滞や事故、駐車場、環境への影響など、車社会のデメリットがある。公共交通により移動手段の選択肢が増え、それを適宜使い分けられることが、豊かな生活だと思う
- バスの快適さ×自転車のコラボをいろいろ考えてみて欲しい。自転車×〇〇体験型観光等
- 高齢の方がアクティブに活動することで、病院に行かなくなり医療費を抑制できる。そのような観点など、総合的な経済の循環性を、もう少し数字を確認しながら公共交通と経済性を考える必要がある
- 日本の公共交通機関は独立採算制が当たり前だが、その状態を疑うべきではないか

事例の提供

- 生活保護や児童扶養手当を受けている世帯の中の1人に対して、都営交通全区間の無料乗車券が発行されている。このような施策は実現しやすいのではないかと
- 過疎地域では、バスの乗り継ぎで待つのは仕方ないため、その付近で物が買えたり、観光できたり、足湯があるなどの、人が集まる場にしている所がある
- ハワイのホノルルにおけるモノレール開発では、駅から徒歩5分圏内(約400m)に住居と商業施設を混在させ、徒歩と自転車にとって使いやすいまちにすることで、人が歩き、お店に立ち止まり、経済活動が生まれ、賑わいのあるまちを作ろうと計画している。そのことにより、道路に空間を取られないため、緑の公園も増え、公共空間も増える。また、騒音は減る、大気汚染も減る、まちに対するプライドが上がる。駅から歩いて行ける距離という考え方が大事だと思う。この計画は、新しい道路建設を考えているのではなく、すでにあるまちの道をどのように良くしていくか、歩行者をどうデザインで誘導していくか、という計画である
- ハワイのシェアバイクは、公共的な施設に必ずしもあるわけではないが、ワイキキからホノルル間の中心市街地などには沢山ある。65%程度は住民が利用し、35%程度は観光客が利用する
- 富山市では、近い将来の高齢化社会に備えて、公共交通網を整備することでコンパクトシティをつくるという、まちづくりの指針を掲げて、日本で初めて新型路面電車(LRT)を導入した。交通網を整え、周辺に住んでもらうことで社会的コストを抑えられる。その為、周辺に引っ越すと、市から助成金が出る等の優遇がある
- 現在、全国の路面電車が好調で、2012年からの5年間で5%の乗客が増加している。そのトップが富山市で24%も増えている。明確なまちのビジョンがあり、市民の理解を得ながら行っている
- ハワイは概ね車いすでも移動ができる。国外から来た方への情報案内もしっかりしていて、英語があまり出来なくても乗れる。また、地元の高齢者が沢山乗っている
- 台湾では、シェアバイクを公共的な乗り物と認め、学校や病院、公共施設等の公共的な土地を提供して自転車置き場を沢山設置し、便利になっている
- 岡山にある「ももちゃり」は、全国のレンタサイクルの中でもトップの利用率である。自転車置き場は、現在30~40箇所あるが、路面電車の乗り場の近くには無い。それは、路面電車やバス会社の方が、自転車にお客さんを奪われると思っている。公共性とは何か、各主体になる所が自分ごととして考える必要がある

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

1) 残された人を見逃さない

県民がどのような手段で移動しているのかをあまねく調査し、年齢や社会属性にかかわらず、だれもが移動の権利から取り残されることの無いよう見守る。

2) あらゆる移動手段を組み合わせる

路線バス、モノレール、自家用車だけでなく、自転車やコミュニティバス、船舶、乗り合いに至るまで多様な移動手段を組み合わせ、その使い方を誰もが簡単に知ることによって移動の権利を享受できよう整える

3) 公共交通と街づくりを組み合わせる

公共交通は、都市計画と組み合わせることでこそ機能する。官官・官民が協働し、都市の必須機能として公共交通を街づくりのデザインに組み込む施策検討を行うべきである。

■参加者によるサブセッション

那覇市と周辺地域の住民誰もが自由に 移動できるまちづくりと公共交通を考える円卓会議

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります)

- ①
 - ・俯瞰的視点
 - ・市町村側から県に強く意見すること
 - ・市町村に交通の予算ない!
 - ・利用者目線はあるのか?
 - ・市民の意見
 - ・バス運転者不足
 - ・バス路線の効率化
 - ・沖縄流の公共交通
 - ⇒新幹線や電車がない
 - ⇒遠出で公共交通使う?
 - ⇒結局車が便利
 - ⇒生活密着の考え方、始まりか?
 - ・まちづくりで公共交通の視点ない
 - ⇒ショッピングセンターはでかい駐車場
 - ・バス停自体をコミュニティの場にする
 - ⇒広告、協賛、バス会社も利用者も win-win
- ②
 - ・決まった時間に移動したいとなると、やはり車が便利
 - ・張り巡らされている交通網や公共交通機関に地域格差がある
 - ・街の構造自体も歩くことを考えるものになっていなかったりする
 - ・ショッピングセンターは車ありきの施設
- ③
 - ・自転車を公共交通にしたい
 - ・歩くのが結局便利な場合もある
 - ・世界はシェアバイク (ex.台湾)
 - ・終戦時自転車はなかった=乗ったことない人多数
 - ・4月購入⇒6月諦める
 - ・外国人留学生はみな自転車
 - ・乗って楽しい快適なバスを!
- ④
 - ・イス 50 もいない
 - ・バスは怖いものではない
 - ・バスに自転車を積めるようにしてほしい
 - ・鉄道作るより電動自転車を
- ⑤
 - ・公人は公共交通使ってますか? (議員など)
 - ・乗り放題の Pass で便利に
 - ・ノンステップで乗りやすくなった
 - ・BT の表示が分かりにくい (どのバスに乗れば…)
 - ・個性を感じる停留所 (オキミュー前のブーゲンビリア)
- ⑥
 - ・移動権
 - ・バスターミナルの音声アナウンス
 - ・ハワイでは無料でバスに乗れる
- ⑦
 - ・バスなびは使えない
 - ・連携できない
 - ・観光客も結局レンタカーになる
 - ・自転車をバスに載せられる
 - ・具体的にどうしていくのか?
 - ・観光の視点でも公共交通は重要
 - ・夏は暑いし、坂道も多いので自転車は電動じゃないとダメ
- ⑧
 - ・せっかくあるものを使えるように
 - ・情報が埋もれていてせっかく利用しやすくなってもバスを利用できないこともある
- ⑨
 - ・バスを使いたくなる理由 (宣伝がうるさい、人の圧迫感、時間)

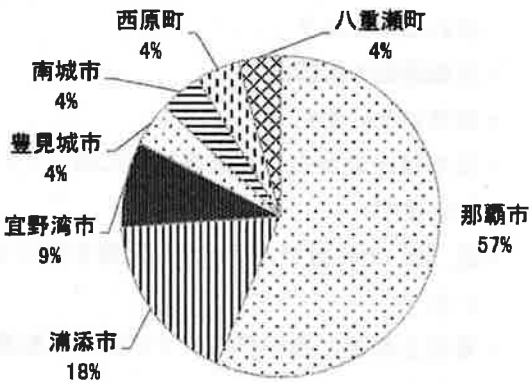
- ・バスなびは便利(乗りたい路線のもの位置)
 - ・google が使えるようになると便利
 - ・渋滞がひどい、今後もひどくなる(人口増、那覇等のマンションの建設等)
 - ・移動の権利は大事(お年寄りには車が無くなると生活が変わる)
 - ・自転車を使いやすいようになってほしい(レンタサイクル置場)
- ⑨ ・高齢者とバス⇒若い世代⇒カーシェアリング
- ⑩ ・居住の自由と都市のサイズの限界
- ・車の維持費を意識
 - ・まちの作りから住む場所を考える
- ⑪ ・公共交通の便利さ(よそなどに行くと感じる)
- ・沖縄の車社会に慣れてると他の地の便利さに驚く(カー、バイクシェアなどが進んでいる)
 - ・スタートマップ、便利なアプリを使っている
 - ・交通のことだけに焦点を合わせると全体は見えない
 - ・車交通ありきの前提で計画ができていることもあるのではないか?
 - ・いろんな手段は増えているか。不満が解消されないのは?
 - ・自動運転の影響は
 - ・信号がないまち
 - ・日本は土地がなく本来車社会に向いていないはず
 - ・国、県、市町村がバラバラに施策を行っている
 - ・車社会前提に街が作られているから転換できない
 - ・行政やまちづくり立案者の責任は大きい

**公共交通を福祉とまちづくりの視点から考える 地域円卓会議
参加者アンケート集計**

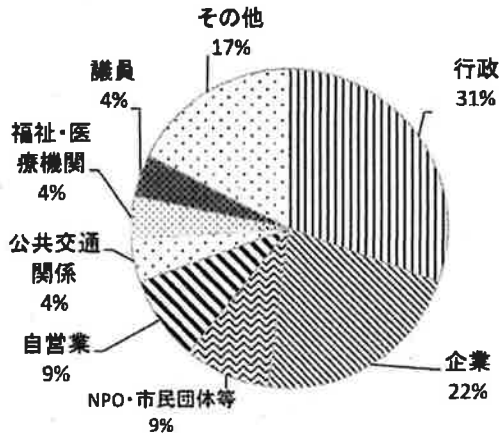
◆概要

- ・日時：2019年3月9日(土) 13:00-15:40
- ・場所：沖縄県立図書館 3F ホール
- ・着席者：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：45名（アンケート回収23名、回収率51%）

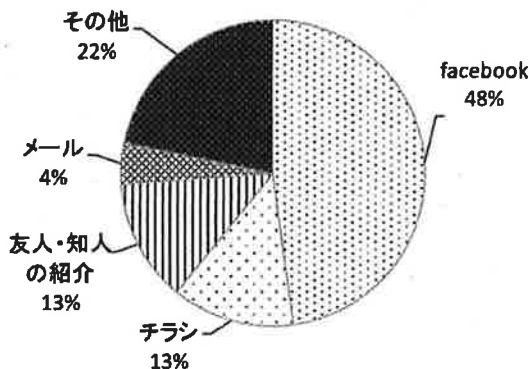
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.4 (5点中)

5.満足	4.概ね満足	3.普通	2.あまり満足していない	1.不満足
9名	13名	0名	0名	0名

5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・浦添市では今夏モノレールが開通します。同じ時期、西海岸にサンエーパルコさんが開店します。東西に公共交通が少なく課題になっています。移動しやすいまちづくり、大変参考になりました
- ・県内外の事例や公共交通のあり方が知ることができた
- ・会議内容が住民目線レベルになっていたので内容が現実的であった。課題が多く話し合われたことが良かった。この課題を早急に対応することが必要ではないかと思う
- ・自分自身は徒歩、バス、モノレール、自家用車を使い分けて普段あまり問題意識を持っていなかったのでもいい機会になりました
- ・高齢者や車いす、自転車、バス、いろいろな角度からの紹介があった点
- ・全体を考えた（SDGs）の協働から共創の必要性を感じられた
- ・それぞれが希望を満たそうとするとやはり地球 2 個半のエネルギーが必要になってしまいそう！
- ・多様な人の意見を聞けること
- ・公共交通と福祉の結びつきにはとても共感することだった
- ・公共交通の持っているポテンシャルが大きいことを改めて感じました。福祉・教育などのまちづくりの視点からお交通が担っている役割は大切だと思います

(4. 概ね満足)

- ・ さまざまな取り組みがされていることを学べた
- ・ 問題の観点が整理できたから
- ・ 県外、海外の事例を知れたのが良かった
- ・ モノレール導入によってよくなった点とかがあればそういう話も聞きたかった
- ・ 公共交通に対する他の方々の不満点が多かった。どのように解決すればよいか問題点、課題が多すぎてそれらの交通整理が必要だと理解できた
- ・ 自動運転など技術が公共交通にどのように反映されるのか関わっている方々の意見を聞きたかった
- ・ 82歳の老婆が家にばかりでは寝たきりになりかねないので1日乗車券を利用して週2〜3回バスで出かけています。ノンステップもありがたい、また、運転手さんも優しくていい気分です
- ・ 現状を変えるにはもっと大きな社会的インパクトが必要と感じた。またそのインパクトが起きた時にチャンスととらえる人がどのくらいいるのかということも気になる。特に行政
- ・ 県民のストレス軽減のための公共交通のあり方の視点で政策を考えてほしい
- ・ 移動の自由ができれば地域活性化すると思う
- ・ いろいろな立場の方から意見を聞いたことが非常に面白かったです
- ・ 利用者としての意見しか持っていなかったが、まちづくりの観点からの意見も聞いたことが良かったです
- ・ 公共交通の「公共」とは何なのかを考えることができました
- ・ 会場が寒い、誰も気を配っていないですね
- ・ スピーカーの背中を見て話を聞くのは少し退屈でした
- ・ 障がい者の方から「移動は権利である」とい

うメッセージへの共感とともに経済効果が訴えられたことは示唆的でした

- ・ 後半、福祉に関する話題も出て現状を知ることができた
- ・ 改善はされているのに情報がうまく公開、見えるようになっておらず使えないという車いす利用の方の声が印象に残っている。やーぐまいせず外に出られるように！
- ・ いろんな立場の人がひとつのテーマで話せたので面白かった（場の雰囲気良かった）
- ・ いろいろな立場の人の興味深い話が聞けました
- ・ おでかけは権利である、公共交通は生活のインフラだから「公共」であると思いました。とても充実した議論でした

5. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 日頃バスを使っているので本数が増えればいいな、渋滞が無くなればという程度でしか考えていなかったけど公共交通はまちづくりなどというもっと大きな視点で捉える必要があることが重要
- ・ バスの乗り継ぎの際に再度料金を払うこと、結果的にバスの料金が高くなる。バスナビ検索すると実際のバス停時刻表の時間とズレがある。改善が必要。バスナビは観光者にとっては使いづらい
- ・ ハワイのお話は興味深かったです
- ・ どうまとめるかをみんなで一緒に考えよう！
- ・ 会議を続けていくことがいい結果につながる
- ・ ひとり親世帯、オキカで無料ありだと思おう
- ・ 移動のデザイン
- ・ 弱者目線で進める
- ・ バスの乗り換えだと金額が上がるからとモノレール駅から目的地まで20分以上などなど（モノレールにも自転車を乗せられたらと思ったことはあった）

- ・ シェアサイクルを公共交通としてほしい
- ・ 沖縄独自の公共交通（移動手段）の仕組みを見つける
- ・ 俯瞰的な視点からの交通を考える
- ・ すべての人が移動しやすく（ノンステップなど情報発信）
- ・ まちは変わっていくが交通は変わらない
- ・ 移動することは権利（移動権）という発想はなるほどと思いました
- ・ 移動できる権利という言葉が印象的でした。マイカー利用の日常ですがまちには住む人々がどういう人たちが利用しやすいか考えるいい機会になりました。ありがとうございました
- ・ 誰もが誰がどのように困っているかをもっと深掘りしたい
- ・ 石垣さん、前城さんの視点は勉強になりました
- ・ 街のありようは時代とともに変わっていくのでそれに合わせた公共交通のありよう（路線や乗り物の種類など）が変わっていくということ
- ・ グループトークでモノレール駅に大型駐車場を併設することが決まっているらしく成功させてほしいと思った
- ・ 障がい者の方々への対応（特に時刻表にノンステップバスが記載されていない）など問題点を知らなかったので教えてもらえてよかった
- ・ 石垣さんからの「平等な社会を作るためのインフラ」という言葉が心に残りました
- ・ 高崎さんからの富山市の例は、沖縄は仕方がないという諦めていた気持ちから少し前向きな気持ちに変えてもらいました
- ・ シングルマザーのバス、ゆいレール無償をぜひ！
- ・ 都市計画、まちづくりのデザイン、ソフト面、ハード面、両方で考える必要があるのではないかとこのところ
- ・ お話伺いながら今ある人々の「意識（バスは不便で使えない）」はデザインする中で変わっていくのかなと気になりました
- ・ バス停をコミュニティの場にする。バスが移動ツールだけではなく他の機能も付加させると面白くなると思った
- ・ 機は熟してきている。公共交通の整備は市町村、県、市民で本気になって進めるべき協働作業だと思いました

(写真) 会場の様子



7月10日 視学

市庁舎の視学
後：意見交換
市庁舎の視学

市庁舎の視学
市庁舎の視学
市庁舎の視学

市庁舎の視学
市庁舎の視学
市庁舎の視学
市庁舎の視学
市庁舎の視学

白紙を伝えた後...

多くの伝えた後...
世帯の...
各々の白紙...
400人...
400人...
400人...

市庁舎の視学...
市庁舎の視学...
市庁舎の視学...
市庁舎の視学...
市庁舎の視学...

高齢者と... 多世代 カーシェア

層位の...
都市の...
都市の...
都市の...

都市の...
都市の...
都市の...
都市の...
都市の...

市庁舎の視学...
市庁舎の視学...
市庁舎の視学...
市庁舎の視学...
市庁舎の視学...

市庁舎の視学...
市庁舎の視学...
市庁舎の視学...

市庁舎の視学...
市庁舎の視学...
市庁舎の視学...
市庁舎の視学...
市庁舎の視学...

せ、かくあるものを

使えるように

市庁舎の視学...
市庁舎の視学...
市庁舎の視学...

資料購入費

H31年4月18日

900-0021

那覇市泉崎1-1-1-4F
那覇市議会事務局

前泊 美紀 様

新日本法規出版株式

代表取締役社長 服部 昭三

〒460-8455
名古屋市中区栄一丁目23番20号
ご照会先 電話(092)771-0866

お客様№

取引銀行
福岡銀行

¥ 39,034.-

下記内訳のとおりご納品申しあげます。

コード	商 品 名	号数・分類	数 量	単 価	金 額	摘 要
344	誰にもわかる社会生活六法-法律相談Q & A-	64	1	3549	3549	
	〃	65	1	3648	3648	
	〃	66	1	3611	3611	
437	社会生活六法手続・書式編	56	1	2975	2975	
	〃	57	1	3919	3919	
	〃	58	1	2565	2565	
	〃	59	1	2708	2708	
605	Q&A 子どもをめぐる法律相談	19	1	2913	2913	
	〃	20	1	2913	2913	
	〃	21	1	2932	2932	
	〃	22	1	2809	2809	
619	離婚事件処理の実務-Q&Aと給付事例	6	1	4492	4492	
合 計					39034	(税込)

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

【項目】

調査研究費

研修費

広報費

広聴費

要請・陳情活動費

会議費

資料作成費

資料購入費

人件費

事務所費

ご納本NO. 1028902495

請求書

下記のとおりご請求申しあげます

30年 5月 16日

費 用 名	追 録 号 数	数 量	単 価	金 額	摘 要
社会生活六法手続・書式編	56	1	2975	2975	
台 計 金 額				2975	(税込)

900-0021

那覇市泉崎1-1-1-4F

前泊、美紀 様

437*0056-0

生活手続

お客様No

1部

新日本法規出版株式会社

代表取締役社長 服部 昭

〒460-8455 名古屋市中区栄一丁目23番20号
ご照会先 電話<092>771-0866 (代)

指定業者コード



1枚

充当額 2,975 円

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

[]

【項目】 調査研究費 研修費 広報費 広聴費 要請・陳情活動費
 会議費 資料作成費 資料購入費 人件費 事務所費

ご納本NO. 1057506443

請求書

30年 6月 19日

下記のとおりご請求申しあげます

書籍名	追録号数	数量	単価	金額	摘要
誰にもわかる社会生活六法-法律相談Q & A-	64	1	3549	3549	
			合計金額	3549	(税込)

900-0021

那覇市泉崎1-1-1-4F

前泊 美紀 様

344*0064-0

生活六法

お客様No



1部

新日本法規出版株式会社

代表取締役社長 服部 昭



〒460-8455 名古屋市中区栄一丁目23番20号

ご照会先 電話<092>771-0866 (代)

指定業者コード

[]



1枚

充当額 3,549 円

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

【項目】 調査研究費 研修費 広報費 広聴費 要請・陳情活動費
会議費 資料作成費 資料購入費 人件費 事務所費

ご納本NO. 1098112079

請求書

30年 8月 21日

下記のとおりご請求申し上げます

書籍名	追録号数	数量	単価	金額	摘要
Q&A 子どもをめぐる法律相談	19	1	2913	2913	
	20	1	2913	2913	
合計金額				5826	(税込)

900-0021

那覇市泉崎1-1-1-4F

前泊 美紀 様

605*0019-0-0020-0
子ども法律

お客様No

1部

新日本法規出版株式会社

代表取締役社長 服部 昭

〒460-8455 名古屋市中区栄一丁目23番20号
ご照会先 電話<092>771-0866 (代)

指定業者コード

弘達受領証 (白丸印を必ず捺印) 弘送人氏名 前泊 美紀 様	金額 5,826円	受取人 新日本法規出版株式会社	受領印
---	--------------	--------------------	---------

1枚

充当額 5,826 円

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

- 【項目】 調査研究費 研修費 広報費 広聴費 要請・陳情活動費
 会議費 資料作成費 資料購入費 人件費 事務所費

請求書

下記のとおりご請求申しあげます

30 年 8 月 21 日

書 籍 名	追 録 号 数	数 量	単 価	金 額	摘 要
誰にもわかる社会生活六法-法律相談Q & A-	65	1	3648	3648	

ご納本NO. 1097311338

合計金額 3648 (税込)

900-0021

那覇市泉崎1-1-1-4F

前泊 美紀 様

344 0065-0

生活六法

お客様No. [REDACTED] 1部

新日本法規出版株式会社

代表取締役社長 服部 昭

〒460-8455 名古屋市中区栄一丁目23番20号
ご照会先 電話<092>771-0866 (代)

指定業者コード

払込受領証 (インクレス対応)

払込人氏名 前泊 美紀 様	[REDACTED]	金額 3,648円	受取人 新日本法規出版株式会社	受領印 18,909
------------------	------------	--------------	--------------------	---------------

お客様印

1枚

充当額 3,648 円

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

- 【項目】 調査研究費 研修費 広報費 広聴費 要請・陳情活動費
 会議費 資料作成費 資料購入費 人件費 事務所費

ご納本NO. 1162804886

請求書

下記のとおりご請求申しあげます

30年 10月 12日

書 籍 名	追録号数	数量	単 価	金 額	摘 要
離婚事件処理の実務-Q&Aと給付事例	6	1	4492	4492	
合計金額				4492	(税込)

900-0021

那覇市泉崎1-1-1-4F

前泊 美紀 様

619*0006-0

離婚事件実務

お客様No

1部

新日本法規出版株式会社

代表取締役社長 服部 昭

〒460-8455 名古屋市中区栄一丁目23番20号

ご照会先 電話<092>771-0866 (代)

指定業者コード

取引銀行 福岡銀行

私込受領証
 (印字部は必ず添付)

送付人氏名 前泊 美紀 様	金額 4,492円	受取人 新日本法規出版株式会社
------------------	--------------	--------------------

受領印
 新日本法規出版株式会社
 収入印紙貼付欄

1枚

充当額 4,492 円

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

【項目】 調査研究費 研修費 広報費 広聴費 要請・陳情活動費
会議費 資料作成費 資料購入費 人件費 事務所費

ご納本NO. 1166602844

請求書

下記のとおりご請求申し上げます

30年 10月 18日

書 籍 名	追 録 号 数	数 量	単 価	金 額	摘 要
社会生活六法手続・書式編	57	1	3919	3919	
合 計 金 額				3919	(税込)

900-0021

那覇市泉崎1-1-1-4F

前泊 美紀 様

437*0057-0

生活手続

お客様No

1部

新日本法規出版株式会社

代表取締役社長 服部 昭

〒460-8455 名古屋市中区栄一丁目23番20号

ご照会先 電話<092>771-0866 (代)

指定業者コード

取引銀行 福岡銀行

払込金額証 前泊 美紀 様	金額 3,919円	受取人 新日本法規出版株式会社	収入印紙 18,000 2018.10.22
------------------	--------------	--------------------	------------------------------

1枚

充当額 3,919 円

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

【項目】 調査研究費 研修費 広報費 広聴費 要請・陳情活動費
 会議費 資料作成費 資料購入費 人件費 事務所費

ご納本NO. 1237706707

請求書

下記のとおりご請求申し上げます

30年 12月 18日

書 籍 名	追録号数	数量	単 価	金 額	摘 要
誰にもわかる社会生活六法-法律相談Q & A-	66	1	3611	3611	
合計金額				3611	(税込)

900-0021

那覇市泉崎1-1-1-4F

前泊 美紀 様

344*0066-0

生活六法

お客様No

1部

新日本法規出版株式会社

代表取締役社長 服部 昭

〒460-8455 名古屋市中区栄一丁目23番20号

ご照会先 電話<092>771-0866 (代)

指定業者コード

取引銀行 福岡銀行

請求受領証 請求人氏名 前泊 美紀 様	金額 3,611円	支払人 新日本法規出版株式会社	支払日 19.1.07
---------------------------	--------------	--------------------	----------------

1枚

充当額 3,611 円

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

- 【項目】 調査研究費 研修費 広報費 広聴費 要請・陳情活動費
 会議費 資料作成費 資料購入費 人件費 事務所費

ご納本NO. 1277703881

請求書

31年 2月 13日

下記のとおりご請求申しあげます

書籍名	追録号数	数量	単価	金額	摘要
社会生活六法手続・書式編	58	1	2565	2565	
	59	1	2708	2708	
合計金額				5273	(税込)

900-0021

那覇市泉崎1-1-1-4F

前泊 美紀 様

437*0058-0-0059-0
生活手続

お客様NO

1部

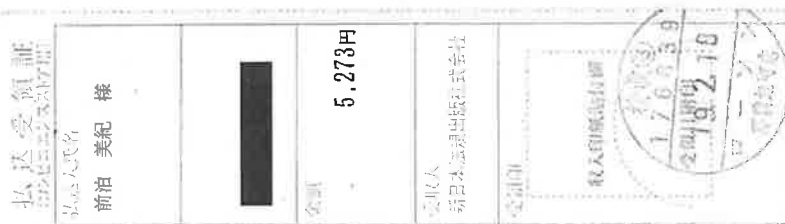
新日本法規出版株式会社

代表取締役社長 服部 昭

〒460-8455 名古屋市中区栄一丁目23番20号
ご照会先 電話<092>771-0866 (代)

指定業者コード

取引銀行 福岡銀行



1枚

充当額 5,273 円

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

【項目】 調査研究費 研修費 広報費 広聴費 要請・陳情活動費
 会議費 資料作成費 資料購入費 人件費 事務所費

請求書

下記のとおりご請求申しあげます

31 年 2 月 27 日

書 籍 名	追 録 号 数	数 量	単 価	金 額	摘 要
Q&A 子どもをめぐる法律相談	21	1	2932	2932	
	22	1	2809	2809	
合計金額				5741	(税込)

ご納本NO. 1300415645

900-0021

那覇市泉崎1-1-1-4F

前泊 美紀 様

605 0021-0-0022-0
子ども法律

お客様No

1部

新日本法規出版株式会社

代表取締役社長 服 部 昭

〒460-8455 名古屋市中区栄一丁目23番20号
ご照会先 電話<092>771-0866 (代)

指定業者コード

取引銀行 福岡銀行

払込受領証
ご入金ありがとうございます

払込人氏名 前泊 美紀 様	金額 5,741円	受取人 新日本法規出版株式会社
------------------	--------------	--------------------

1枚

充当額 5,741 円

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

[]

- 【項目】 調査研究費 研修費 広報費 広聴費 要請・陳情活動費
 会議費 資料作成費 資料購入費 人件費 事務所費

沖縄建設新聞購読料領収書

8514

前泊 美紀

殿

2018 年 03 月 01 日

振込金額	¥32,400
------	---------

2018/04/01~2019/03/31	30,000
消費税額	2,400
合計	32,400

※上記金額領収致しました。

振込口座番号

沖縄海邦銀行
沖縄銀行・
琉球銀行

株式会社 沖縄建設新聞
沖縄県那覇市泊3-5-6 TEL(代表)098-867-1290



領収日付印



【ご注意】 銀行の領収印
なきものは無効です。

※取扱店↓振込人宛交付

1枚

充当額 32,400 円

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

【項目】 調査研究費 研修費 広報費 広聴費 要請・陳情活動費
 会議費 資料作成費 資料購入費 人件費 事務所費

コピー (原本はH29年度収支報告書に添付)

領 収 証

No 094715

前泊 美紀

殿

¥ 90,720



但し 日経グローバル 年間購読代金として
(2017年11月～2018年10月)

上記の金額正に領収いたしました

2017年 12月 12日

東京都港区虎ノ門 4-3-12

株式会社 日経BPマーケティング

扱 印

H30年4月～10月分 52,920円充当 (毎月2冊×7カ月分)

領 収 証

No 095512

前泊 美紀

殿

¥ 90,720



但し 日経グローバル 年間購読代金として
(2018年11月～2019年10月)

上記の金額正に領収いたしました

2018年 12月 18日

東京都港区虎ノ門 4-3-12

株式会社 日経BPマーケティング

扱 印

^{2019年}
H30年11月～3月分 37,800円充当 (毎月2冊×5カ月分)

充当額 90,720 円

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

[]

- 【項目】 調査研究費 研修費 広報費 広聴費 要請・陳情活動費
 会議費 資料作成費 資料購入費 人件費 事務所費

領 収 証 No. 372620

前泊美紀 様 2018年06月20日

金額 ¥ 7,236

但し書籍代として 上記の通り領収致しました。

〒900-0013 沖縄県那覇市牧志1丁目19-29
 ディーナ1F~3F
株式会社 ジュンク堂書店 那覇店
 TEL(098)860-7175
 FAX(098)860-7176

株式会社 **丸善ジュンク堂書店**

平成 30 年 6 月 20 日 7,236 円 (ジュンク堂)
 有限責任監査法人トーマツ編著『Q&Aでわかる！自治体の内部統制入門』（学陽書房）税込 2,700 円
 遠藤正敬著『戸籍と無戸籍』（人文書院）税込 4,536 円

領 収 証

2018年 7月 10日

前 泊 美 紀 様

¥2,500-

但し:書籍「子どもの貧困対策と教育支援 よりよい政策」(明石書店)購入代金として

日本大学 文理学部 教育学科
 教授 末 富 芳

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40
 TEL:03-5317-9714 FAX:03-5317-9425

7月10日 2,500円 (あすのばフォーラム)
 末富芳編著『子どもの貧困対策と教育支援 よりよい政策』（明石書店）

2枚 充当額 9,736 円

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

【項目】 調査研究費 研修費 広報費 広聴費 要請・陳情活動費
会議費 資料作成費 資料購入費 人件費 事務所費

領 収 証

前泊 美紀

様

No. _____

★ 5,000-

内 訳 _____
 現 金 _____
 小切手 / _____
 手 形 / _____
 消費税額等(%) _____

コクヨ ウケ-98

但し 包括外部監査の通信簿2018の代金として

2018年 8 月 22 日 上記正に領収いたしました

収入印紙

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-7-9

チサンマンション丸の内第2 30

全国市民オンブズマン連絡会



8月22日 5,000円

全国市民オンブズマン連絡協議会『包括外部監査の通信簿 2018』

領収証

前泊 美紀

様

領収証番号:000012546
2018年11月28日 No. 01-000298971

金額 ¥12,474-

(内クレジットカード利用計 ¥0(内消費税等 ¥0))
(内現金扱い等計 ¥12,474(内消費税等 ¥924))

但し

書籍代として

上記正に領収いたしました。

関丸善ジュンク堂書店 那覇店

〒900-0013沖縄県那覇市牧志1-19-29ディーナハビル5~3F
電話098-860-7175

11月28日 12,474円 (ジュンク堂)

浅野一弘著『危機管理の行政学』(同文館出版) 税込 3,780円

SWASH編『セックスワーク・スタディーズ』(日本評論社) 税込 2,052円

川瀬光義著『基地と財政』(自治体研究社) 税込 1,728円

伊多波良雄・川浦昭彦・原田貞夫著『基礎から学ぶ財政学』(晃洋書房) 税込 3,024円

上村敏之著『コンパクト財政学第2版』(新世社) 税込 1,890円

2枚

充当額 17,474円

平成 30 年度

議員名

前泊 美紀

整理番号

【項目】

調査研究費

研修費

広報費

広聴費

要請・陳情活動費

会議費

資料作成費

資料購入費

人件費

事務所費

領収証

領収証番号:000005326

2019年03月19日 No.08-000132848

前泊 美紀

様

金額

¥1,620-

(内クレジットカード利用計

¥0(内消費税等 ¥0))

(内現金扱い等計

¥1,620(内消費税等 ¥120))

但し

書籍代として

上記正に領収いたしました。

機丸善ジュンク堂書店 那覇店

〒900-0013沖縄県那覇市牧志1-19-29ディーナハB1F~3F

電話098-860-7175

平成 31 年 3 月 19 日 1,620 円 (ジュンク堂)

沖縄国際大学公開講座 27『法と政治の諸相』(編集工房 東洋企画)

1枚

充当額 1,620 円

備品台帳
品名
規格
數量
單位
備註

備品台帳

備品管理台帳

会派または議員名 前泊 美紀

番号	名称・型番	購入金額 (充当額)	購入日	耐用 年数	監理責任 保管場所	廃棄・譲渡日 理由	備考
1	パソコン Pavilion15-n200スタンダードモデル F7Q55PA #ABJ	71,064円 (7,106円)	H26.5.26	4	なはの翼f協働/無所属の会/維新・無所属の会 那覇市役所4階		複数会派の共有物として購入。
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							